

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年10月30日

【評価実施概要】

事業所番号	4590100311		
法人名	株式会社九州ケアサービス		
事業所名	グループホーム田野あやか園		
所在地	宮崎県宮崎市田野町乙10125番地9 (電話) 0985-55-7257		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成21年9月16日	評価確定日	平成21年10月30日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

遠くに鰐塚山を眺め、自然に包まれた緑豊かな所にホームはある。すぐそばには公園もあり、利用者は室内から公園を眺めることができる。開設から1年にも満たないが、地域の区会での行事に参加したり、運営推進会議委員の協力で消防署の定期的な避難訓練等の指導や、緊急通報と地域住民の協力体制で、安心して落ちついた生活ができています。管理者や職員は、理念に沿ったケアに熱心に取り組む姿勢が感じられるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4） 今回は初めての評価である。
	②	今回の自己評価に対する取組状況（関連項目：外部4） 自己評価票は職員が個々に記入したものを管理者がまとめている。職員は、日ごろのケアを振り返るとともに、気づきや希望を記載している。一人ひとりが熱心に自己評価に取り組んでおり、ケアに対する熱意が読みとれた。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組（関連項目：外部4, 5, 6） 運営推進会議の委員に消防関係者がいたことで、避難訓練で地域住民の協力が欠かせないことが分かり、近隣住民の電話連絡網や、緊急時に地区住民にサイレンで知らせる方法を採用ようになり、夜間を想定した避難訓練などの協力を得られるようになった。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8） 利用者家族が運営推進会議に出席することでホームを理解してもらえたり、意見等を出してもらっている。そこでの意見をサービス向上に生かしている。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3） 地区会に入り清掃等の地区活動に参加している。近隣の方が花の苗を持参し、植栽するなど地域との交流が図られている。災害時の電話連絡網による地域との協力体制もできている。

【情報提供票より】（平成21年8月24日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	昭和・平成20年12月8日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤7人, 非常勤1人, 常勤換算7.6人	

（2）建物概要

建物構造	木造 造り	
	1階建ての	1階部分

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 250 円
	夕食	250 円	おやつ 50 円
	または1日当たり 円		

（4）利用者の概要(平成21年8月24日現在)

利用者人数	9名	男性 0名	女性 9名
要介護1	2	要介護2	1
要介護3	3	要介護4	3
要介護5	0	要支援2	0
年齢	平均 82.3歳	最低 76歳	最高 90歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	湯田胃腸科内科、湯田歯科
---------	--------------

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「公平、公正、安全、安心」を理念として「ゆっくり、のんびり、楽しく」をケアの目標としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は利用者の意思を尊重し、希望に合わせて「ゆっくり、のんびり、楽しく」を目標に日々のケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区会に入会し、地域の方たちと同じように地区活動（清掃等）に参加している。近隣の方が花の苗を持参した上での植栽があったり、散歩時等にはあいさつをするなどの交流がある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価票は職員が個々に記入したものを管理者がまとめている。職員は、日ごろ頃のケアを振り返るとともに、気づきや希望を記載している。一人ひとりが熱心に自己評価に取り組んでおり、ケアに対する熱意が読み取れた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は利用者家族、公民館長、民生委員、地域包括支援センター職員の出席で2か月ごとに開催されている。消防訓練の報告や利用者の食事の試食、行事報告等と意見交換が行われ、そこでの意見をサービスの質の向上に生かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターの主催する勉強会に参加したり、直接出向いて情報交換をしている。また、相談を受けた時にわからない部分については、市の担当者に相談をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時や、状態の変化があればそのつど報告している。また、必要な時は、電話でも連絡をしている。	○	利用者の日常の様子や誕生会等の行事について機関誌等を活用し、家族に定期的にお知らせするなどの工夫をしてほしい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議での家族の要望や意見を取り入れている。また、玄関に意見箱を設置して匿名で意見の投書が出来るよう工夫をしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が退職する場合には、新しい職員を早めに配置し十分な引継ぎを行い、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回のミーティングで、研修受講者の報告や勉強会をしている。また、外部研修には計画的な参加を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームからの来訪や、他のホームとも同業者と連絡を取り合って交流を深めるようにしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居する前に、家族と一緒に行事等に参加する等、雰囲気を確認少しずつ慣れてもらっている。場合によっては「一日体験入居」を行い、その上でサービス利用を判断してもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人ひとりの訴えや話を聴き、一緒にパッチワークをしたり料理を教わったりしている。生活歴も考慮し、寄り添いながら支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの意向や要望を把握し、気づきや申し送りの記録を見て、利用者本位に検討をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	現在ミニカンファレンスで意見を出し合って介護計画を作成するようになったが、利用者の担当職員や職員全員で行われているわけではない。	○	月1回のミーティングやミニカンファレンスで関係する医療機関、家族の意見を基に担当職員や他の職員も意見を出し合って介護計画を作成することを期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	経過記録を基に1か月に1回のモニタリングと3か月ごとの見直しを行っている。また、状態変化時の見直しは、医療機関や家族の意見もとりいれながら現状に即した介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族や友人と連携を図り、外出など柔軟な対応を行っている。病院受診は職員が付き添い支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者それぞれのかかりつけ医に連絡を取っており、受診や往診時に状態についての報告を行っている。また、夜間や急変時にもできる限り対応してもらうようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期等の指針については、家族に説明し同意を得ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者に対し言葉遣いも優しく、介助の必要な人にもさりげない声かけと介助をしており、人権を尊重したケアを行っている。また、個人情報の取り扱いには特に注意をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望に沿えるように様子を見ながら、楽しく過ごせるように歌をうたったり、散歩やドライブ、買い物などその人にあった支援をするようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は業者の献立による配達を利用し、包丁を使わない皮むきなどを職員と一緒にやっている。職員は食事介助を要する方や見守りに徹して、現在一緒に食事はしていない。	○	食事を楽しむことの支援の一環として、同じテーブルを囲み楽しく食事ができる雰囲気づくりや、食を通じたさまざまな取り組みを更に期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴剤を使用したり、ともに歌を歌いながら、入浴している。入浴日は週3回と決まっているが希望や拒否等がある場合は別の日に入れるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	庭に出て花の手入れをしたり、新聞紙をたたんだり、後片づけや縫い物、お化粧する等、一人ひとりの力量に応じた楽しみや気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの公園へ出かけたり、家族・友人・職員とともに外出する利用者もいる。時には、買い物・外食もしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームは車のスピードが出やすい位置の道路沿いにあり、現在徘徊する人がいるため、入り口に鍵をしている。	○	玄関・門扉は鍵をかけていないが、玄関に出る所に鍵がかけてあるので閉塞感を感じる。利用者の様子を見ながら鍵をかけない工夫をしてほしい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急連絡装置と近隣の人々の電話連絡網、火災発生時等は近所にサイレンで知らせるなど、防災対策は地域の人々の協力が得られる仕組みができています。避難訓練時の課題については、消防署員の指導で改善される計画も進められている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材を配達する業者の管理栄養士による献立で、カロリーや栄養バランスの良い食事を提供できるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホールの壁に絵画が飾られ、ピアノもあり、畳のコーナーは一段高く、こたつが置いてある。家庭的で、食堂は談話室にもなっている。台所の流し台の前の棚は、お膳などを置けるように広く使いやすいように工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた寝具や家具等を使っている。テレビやポータブルトイレを持ってきている人もおり、それぞれに居心地良く過ごす工夫がされている。		

※  は、重点項目。